

国民の世論と運動で、「社会保障・税一体改革」をやめさせ、社会保障拡充への転換を！

ほっかいどうの社会保障

2015年10月29日 北海道社会保障推進協議会 Tel:011-758-2648 FAX:758-4666

地域医療を守れ 産み育て住み続けられる地域へ
深刻になる実態 広がる地域医療を守る取り組み

道内選出国會議員へ要請行動

10月22日、北海道医労連などが、道内選出の国会議員（国会事務所）に「地域医療を守る」ための要請行動を行いました。

参加者は「救急車で3時間かかる地域もある」「出産できない」など、地域の実態を伝え、入院ベッドを機械的に削減するのではなく、必要な提供体制の充実を求めました。

国会閉会中のため、多くの国会議員が不在でしたが、共産党の畠山和也衆議院議員と直接、懇談・要請できました（写真）。

各秘書も「地元の医療が大変な状況は承知しています。国会議員に伝えます」と好反応で、与党議員の秘書が「詳しく話を聞かせてほしい」と30分懇談したところもありました。

はじめて国会議員要請行動に参加した女性は「緊張しましたが、自分の声を直接伝えることができ貴重な経験になりました。皆で集まり、行動、交流することが大切なんだと実感しました」と感想を述べました。



「出産難民」初産できない自治体が151 道議会でも、各会派が、地域医療の充実求める

北海道は、10月1日現在で、分娩実施している自治体別の医療機関数を公表しました。初産が可能な市町村はわずかに28（179市町村）です。一般紙でも「出産難民」と特集で報道されています。

道内に地域医療構想調整会議は、29日現在で21の2次医療圏のうち、札幌を除く医療圏が開かれています。道議会でも各会派が、地域医療を実態に触れ、地域医療の充実を求めています。機械的なベッドを削減する計画ではなく、必要な医療が受けられる体制を作ることが必要です。オール北海道で取り組みを広げましょう。

稚内 地域医療充実へ

市民会議19団体で発足 市民集会も

10月28日、地域医療を考える稚内市民会議が発足しました。市立稚内ない病院をはじめ、市内の病院や診療所を市民が協力しながら支えることにより、地域医療の充実をはかり、だれもが安心して住み続けられる地域を構築することが目的です。稚内市立病院の医師確保や医学生への研修の呼びかけや稚内市の研修フィールドの提供などをすすめます。会長は市長で、医療関係団体、福祉関係組織、町内会、老人クラブ、校長会・教頭会・父母と先生の会などの学校関係者、商工会議所、青年会議所、信用金庫など19団体で構成しています。

夕方には、「第1回 稚内の医療を考える市民の集い」も約200人の参加で行われました。

遠軽

安心して子どもの産めないまちに、未来はありません。

周産期医療を守る署名 人口比66%

遠紋地域の周産期医療を担っている遠軽厚生病院の産婦人科の常勤医師が10月から不在になる事を受け、遠軽町の住民で作る「遠紋地域の周産期医療を守る会」が署名行動を進めています。すでに約1万4千筆集まっています（遠軽町の人口2万1千人）同会では、北海道にも直接要請する予定です。



北海道の地域医療を守る緊急集会

11月16日（月）18時30分

北海道自治労会館 4階ホール